

会 議 録

会議の名称	第3回 飯塚市文化施設活用検討委員会
開催日時	令和4年7月28日(木) 15:00~17:15
開催場所	飯塚市役所 本庁 1階 多目的ホール
出席委員	竹川委員長、河副委員長、徳永委員、瓜生委員、田中委員、志村委員長曾我部委員、榎本委員、大石委員、寺田委員、眞鍋委員、奥田委員
欠席委員	福丸委員、早川委員、田上委員
事務局	<p>【教育部】</p> <p>山田教育部長</p> <p>【文化課】</p> <p>坂口課長、久原文化施設整備担当参与、吉田文化施設整備推進係長、西田</p> <p>【商工観光課】</p> <p>小川課長、柴田課長補佐、田中観光係長</p>
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>3-1 前回の会議での質問に対する回答</p> <p>3-2 嘉穂劇場に深く関わりのある方々へのヒアリング結果について</p> <p>3-3 他の文化財施設の活用状況</p> <p>3-4 嘉穂劇場の活用策について（グループ討議）</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
会議資料	<p>資料1 NPO 法人嘉穂劇場決算資料</p> <p>資料2 嘉穂劇場に深く関わりのある方々へのヒアリング結果</p>

会 議 録

	資料 3 八千代座復興の足跡 資料 4 名勝立花氏庭園 視察報告
公開・非公開 の別	① 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者 1 人)
その他 (非公 開理由等)	
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>地域のシンボルであり、地域の劇場でもある嘉穂劇場をどう再開するかということだが、今まで嘉穂劇場は何度も存続の危機を乗り越えてきた。また他市には八千代座や御花という現役で活用されている文化財の施設もある。このような施設の活用方法や嘉穂劇場とともに歩んだ人たちの言葉や思いなどを学ぶことが今回の議題であるとともに、グループ討議においては、委員の皆様の知識だけではなく、経験や知恵というものを集めて、飯塚の地域の劇場として、嘉穂劇場がどのように活用できるかということ、本当に自由な発想でぜひご発言いただければと思う。</p> <p>3 議題</p> <p>3-1 前回の会議での質問に対する回答</p> <p>●事務局より前回の会議での質問に対して回答</p> <p>【前回会議での質問】</p> <p>① 嘉穂劇場の入場者数のうち、外国の方がどのくらいの人数及び割合を占めていたのか。</p> <p>② 嘉穂劇場の収益のうち、興行収入が占める割合と見学収入が占める割合はどのくらいだったのか。</p> <p>【事務局回答】</p>

会 議 録

- ① 前事業主に確認したが、記録等は取っておらず詳細は不明である。
- ② 収益の割合については資料1のとおりである。（資料1について説明）

3-2 嘉穂劇場に深く関わりのある方々へのヒアリング結果について

- 事務局より資料2の内容について説明

【質問・意見等】

なし

3-3 他の文化財施設の活用状況

- 委員より八千代座の活用状況について、資料3に沿って説明

八千代座は山鹿市に正式寄贈されるまでは、保存状態がひどくぼろぼろだったが、市民や地元団体の運動を通して復興し、国の重要文化財に指定されるまでになった。そこで今後の八千代座の活用を考えるため、様々な団体で構成される市民団体を創設した。その時のスローガンは「活用保存」とし、いかに活用していくかということを中心としたものだった。より良く活用できるよう、楽屋や資料館、交流館などの周辺施設の整備を重要視したことにより、公演を行う演者にも大変好評を博している。それが公演の量と質に良い影響をもたらしているのではないかと考えている。やはり劇場として活用していくには附属施設や周辺整備はとても重要ではないか。

【質問・意見等】

- ③ 八千代座の設備について

質問委員：演者は楽屋の設備等を見て、来る来ないを判断することがあるのか。

説明委員：設備や周辺施設がきちんと整備されていると演者に喜ばれるため、座長としても演者を連れて来やすいという話を聞いている。

会 議 録

質問委員：嘉穂劇場の楽屋等はどうなっているのか。

事務局：楽屋は老朽化しており、狭小である。

●事務局より名勝立花氏庭園の活用状況について、資料4に沿って説明

印象的であったのは、文化財としての価値を正しく伝えるという明確な経営方針をもってはいるが、地元住民の理解・新たなファンの獲得という点では、非常に苦勞しているということだった。若い年代に支持されなければ残っていけないということを十分に理解しており、様々なイベントなどを行っている。また、情報発信という部分については、受け継がれてきた歴史の時間に興味を持ってもらうとともに、文化財の価値やコンセプトを伝えるため、かなり工夫をしているとのことだった。嘉穂劇場においてもそのあたりの伝え方が重要であると考えている。

【質問・意見等】

④ 名勝立花氏庭園のイメージ戦略について

質問委員：立花氏庭園は宿泊も行っていて、とても高級な宿泊施設であるイメージがあり、若い年代への親しみやすさとの両立はどのような形で行っているのか。

事務局：立花氏庭園については、宿泊のみではなく、日帰りプランのようなものを準備するなどの工夫をして、若い世代に文化財に親しみを持ってもらう取り組みをしている。例えば、夜間に提灯を点灯し、いつもと違う雰囲気味わってもらうような企画を行っている。

3-4 嘉穂劇場の活用策について（グループ討議）

●2班（A・B）に分かれて以下のテーマについて討議

- ・建物の歴史的文脈を継承した劇場の使い方について
- ・今の時代にマッチした、劇場の魅力を引き出す使い方について

【A班の意見】

会 議 録

・修学旅行や見学旅行により、子どもたちに嘉穂劇場を知ってもらう取り組みを行う。子どもたちには見学してもらうのみでなく、劇場の舞台で発表を行ってもらい、貴重な体験としてもらうとともに、その経験を次の世代に継承していくことができる。その際には飯塚市限定ではなく、近隣市町村とも連携して行っていく。

・VRを活用し、実際に嘉穂劇場に来られない人のためのサービスを展開する。

・嘉穂劇場を宿泊できる施設にして、子どもたちが合宿できるような施設にする。

・劇場内部や過去の公演内容などを、SNSを利用して情報発信する。

【B班の意見】

・桝席を取り外し可能とすることや座椅子を設置することで、使いやすさを向上させる。

・座長大会のような一つの公演を継続的に行うことで、公演の伝統化を目指したり、近年話題性の高い内容に特化してイベント等を行い、聖地化を目指す。

・劇場の魅力を盛り込んだCMを作成して、SNSなどでPRをしていく。

・福岡市や北九州市などと連携した公演などを行う。

・演劇以外でも活用できるように、それらをプロデュースできる組織作りが必要である。

・嘉穂劇場ののぼり旗を商店街に立てるなどの地域連携が必要である。

・楽屋の狭さを逆手に取り、キャンピングカーやトレーラーハウスなどの見せる楽屋を準備したらどうか。

4 その他

5 閉会